

昭和十五年二月十六日

(福地)

極秘

(研究項目第六項)

對「ソ」謀略ノ刷新ト之ニ伴フ白系指導方針

哈爾濱駐軍特務機關

一、對「ソ」謀略ノ刷新

對「ソ」謀略ニ關スル從來ノ構想ハ日本軍部直接ノ指導ヲ以テ個々ノ謀略單位ヲ運用セントスルニ在リシカ將來之ヲ一層效果的ナラシムル爲ニハ開戰ト同時ニ極東反共自治政權ヲ樹立シ之ニ各種謀略ヲ統合セシメ以テ之ニ政治的意義ヲ附スルヲ有利トス

即チ之ニ依リ在滿支白系露人ニ對シテハ開戰ニ方リテ最モ明確ナル目標ヲ示シテ日本軍ニ對スル自主積極的協力ノ精神ヲ昂揚セシメ又在「ソ」領大衆ニ對シテハ之ヲ驅リテ自由平和ノ獨立國創設ノ希望ノ下ニ進ンテ反共自治政權ニ合流セシメントスル契機ヲ與ヘントスルニ在リ
之カ爲平時準備トシテハ從來行ヒタルモノヲ強化

1968-2

シテ自治政權成立ニ際シ之ニ統合スル諸要素ヲ個々ニ完備シ置クト共ニ一方白系露人自体ニ行政的訓練ヲ施シ以テ自治政權ノ成立ニ際シ一通リノ政府各機關、地方自治体並各種經濟機關ノ構成体特ニ民衆接觸部面ノ責任者ニ白系露人ヲ充テ其際彼等ヲシテ實務ノ遂行ニ遺憾ナカラシムル能力ヲ豫メ附與シ置クト緊要ナリ

二 諒略刷新ニ伴フ白系指導万策

前記平時準備ノ中前段ノ事項ニ就テハ從來ノ方策ヲ踏襲スレハ足レリトスルモ後段ノ事項ニ關シテハ現下滿洲國ノ行政體様ニ若干ノ變更ヲ加フル必要ヲ認ム

即チ白系露人ニ對スル行政的訓練ノ方法トシテハ今之ヲ二個範疇ニ區分シテ考ヘ得ラル

其一、ハ現在ノ行政並經濟機構ノ要員ニ白系露人ヲ採用シ實務ニ當ラシム而モ其實務タルヤ從來ノ滿露人官公吏或ハ會社員ノ如キ「ロボット」的存在ニ止マラシメス責任ヲ以テ業務ヲ擔任セシムルヲ要ス之カ爲ニハ某程度ノ特別任用ノ途ヲ拓カサルヘカラス

此範疇ニ屬スヘキ部門トシテハ中央政府ハ之ヲ暫

1968-3

ク措クトスルモ少クモ省以下ノ各地方行政乃至自治機關、軍、鐵道其他、國策會社等ヲ舉ゲ得ヘク其各方面ニ亘リ所要ノ人員ヲ配當シ軍事、警務、經濟、産業、交通、通信、宣傳、司法等ノ實務ニ就カシムルヲ要ス

其二、ハ白系露人事務局ヲ活用シ日系露人ニ關スル民政的事項ハ悉ク事務局ヲ通シア之ヲ施行スル如クス即チ登記、配給、社會事業、教育、保健體育、文化啓蒙、兵事、商工關係等走ナリ

然レトモ白系事務局存立ノ謀略的必稟ニ基キ之ヲ直チニ地方行政機關乃至自治機關内ニ解消セシムルコト無ク補助機關トシテ存在セシメ之ヲ利用シ實務ノミ之ヲ通シテ行フコト緊要アリ又白系露人ニ對スル協和會ノ活動モ同様ニ必ス白系事務局ヲ通シテ之ヲ行ヒ苟モ政令ニ途ニ阻テ分裂ヲ來サシムルカ如キコトアルヘカラス

證 明 書

1968-4

ソザイエト社會主義共和國聯邦陸軍ノ一員タル
余即チ陸軍中佐タラネンコ G. I. / TARANENKO
G. I. / ハ「北滿洲ニ於ケル陸軍機關長會議」
及「對ソ諜略ノ修正ト之ニ伴フ白崇禧西亞人ノ指
導方策」(一九四〇年二月)ガモスコニ於ケル
赤蠶陸軍檢察本部ヨリ余ニ一九四六年ノ昭和二十
一年ノ三月一日又ハ其前後ニ交付セラレタルコト
並ニ上記文書ノ原本ハモスコニ於ケル右官廳ノ
公文書類中ニ所在スト看ラル、モノアルコトヲ茲
ニ證明ス。

タラネンコ / TARANENKO / 中佐 / 署名 /
(署名及階級)

日本東京 一九四六年五月十七日